Ⅱ．病害虫ミニ情報

施設栽培におけるタバココナジラミの防除対策について

近年全国各地でタバココナジラミと，これにより媒介されるウイルス病が問題となっています。茨城県においても，平成18年にタバココナジラミバイオタイプＱとトマト黄化葉巻病，平成20年にトルコギキョウ葉巻病，平成21年にメロンとキュウリで退緑黄化病が相次いで確認されました。今後，これらタバココナジラミによる被害及び媒介されるウイルス病の発生拡大が懸念されますので，十分注意して防除を行ってください。

●タバココナジラミの特徴と被害

成虫や4齢幼虫の体長は約0.8㎜で，成虫,幼虫とも葉裏に生息しています。タバココナジラミは性質が大きく異なるグループに分類でき,「バイオタイプ」という名称を使ってグループ分けされています。日本では主に4種類のバイオタイプが知られていますが，農作物に被害を与えるのは主にバイオタイプＢとＱです。

バイオタイプＢは，以前シルバーリーフコナジラミと呼ばれていたタバココナジラミです。またバイオタイプＱは，多くの薬剤に対して抵抗性が発達しており，難防除害虫として各地で問題になっています。県内においてもバイオタイプＱは広く分布し，バイオタイプＢよりも多く発生しています。どちらのバイオタイプとも成育適温は25～30℃と高温を好み，県内では野外越冬はできないと考えられています。

被害としては,養分の吸汁による生育阻害や排出物によるすす症状の他,トマト等では果実の着色異常も発生します。また各種ウイルス病を媒介するので,大きな問題となっています。

●タバココナジラミにより媒介される主なウイルス病と対策

タバココナジラミが媒介する主なウイルス病は下記のものがあります。ウイルスに感染した株は伝染源となりますので早急に取り除き，ビニール袋に入れて密封し，枯死させてから処分する等，適正に処理してください。またウイルスに保毒したタバココナジラミを減少させるため，産地で作物を1か月以上作付けしない期間を設定することも効果があります。

ウイルス名	被害を受ける主な作物（病名） ○被害の特徴	重要防除時期
トマト黄化葉巻ウイルス （ＴＹＬＣＶ）	トマト（トマト黄化葉巻病） ○葉の黄化,株の萎縮,着果不良 トルコギキョウ（トルコギキョウ葉巻病） ○花の奇形，葉巻き症状,株の萎縮	発生時期が早いほど被害が大きくなるので,生育初期から防除を徹底する。
ウリ類退緑黄化ウイルス （ＣＣＹＶ）	メロン（メロン退緑黄化病） ○葉の黄化，果実品質の低下	ウイルス感染14～30日後に病徴が現れると推定される。発病による果実品質の低下を防ぐためには，着果10日後までの防除が重要である。
	キュウリ（キュウリ退緑黄化病） ○葉の黄化，収量の低下	ウイルス感染14～20日後に病徴が現れると推定される。発病による収量低下を防ぐためには，収穫終了50日前までの防除が重要である。

●タバココナジラミの防除対策

前述のように，県内のタバココナジラミは多くの薬剤に対して抵抗性が発達したバイオタイプQが主流になっていると考えられます。そのため薬剤による防除だけでは十分な効果は得られにくいので，物理的防除等も取り入れて，防除にあたってください。

対策	方法
野外から施設内へのタバココナジラミの侵入防止	・施設の開口部に防虫ネットを設置する。 （0.8mm 目合い以下で効果があるが，十分な効果を得るためには 0.4mm 目合い以下が必要。防虫ネット設置時には，ハウス内温度が上昇するので，遮光資材や送風ファンの設置等，適正な温度管理に努める） ・施設に UV カットフィルムを展張する。 （生育が軟弱になることや，ミツバチの行動に影響を及ぼすことがあるので注意する） ・施設の周辺に，光反射マルチを敷設する。
施設内でのタバココナジラミの増加防止	・薬剤によるタバココナジラミの防除を徹底する。 ※バイオタイプQに効果がある薬剤を使用する（下表参照）。 （定植時または育苗時に粒剤を施用する。また黄色粘着板を利用してタバココナジラミの発生状況を確認し，初期防除に努める） ・タバココナジラミは葉裏に生息するため，薬剤は下方から吹き上げるように散布するなど，葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。 ・系統の異なる薬剤によるローテーション散布を行う。 （薬剤抵抗性の発達を防止する）
施設内から野外へのタバココナジラミの飛び出し防止（栽培終了時）	・株元を切断しハウスを密閉して，植物体を完全に枯死させる蒸し込みを確実に行い，タバココナジラミを死滅させる。
野外等におけるタバココナジラミの増加防止	・ハウス内外の除草を徹底する。 （タバココナジラミは多くの植物に寄生する） ・残渣置き場等で自生している野良生え作物があれば，早急に抜き取り処分する。 （タバココナジラミの生息地やウイルスの伝染源になる恐れが高い）

表　タバココナジラミバイオタイプQに効果がある主な薬剤

薬剤名	備考
ベストガード粒剤，ベストガード水溶剤 アルバリン/スタークル粒剤，アルバリン/スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系剤
サンマイトフロアブル	有効成分：ピリダベン
コロマイト乳剤	有効成分：ミルベメクチン
オレート液剤	物理的な作用により効果がある薬剤
ボタニガードＥＳ	微生物農薬

※農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載された登録作物、使用方法，注意事項や有効成分の使用回数等を確認のうえ使用して下さい。

※タバココナジラミは雑草も含め多くの植物に寄生し，春から秋にかけては野外でも生息が可能となります。ハウス外から飛び込んでくるタバココナジラミを減らすためにも，防除は産地全体で取り組むことが重要です。産地全体で防除意識を高め，タバココナジラミの生息密度を減らすように努めてください。

茨城県病害虫防除所
病害虫発生予報 2 月号（平成 22 年）より抜粋